

折り加工:A4仕上がり巻き三つ折り_左開き 中面 (紙のサイズ 627×297mm 仕上がりサイズ 210×297mm)

※ 3色のガイドライン及び注釈がレイアウトの妨げになる場合は、「ガイド」レイヤーごと削除していただいて構いません
または、ガイド化 (Mac [⌘]+[5] キー/win [Ctrl]+[5] キー) してご利用ください

谷折り

谷折り



双葉を通して見る世界

双葉は、ひとりひとりにある「当たり前」の行方です。

私達は太陽の光を受け取るように自然と幸せを受け取っていて、それはずっとここに在り続けるものだと思ってしまうように思います。

実は日々とても大切な事が身近に起こっていて、それが意外と見えているようで見えていないだけではないでしょうか。

「当たり前」の中でどうしても見落としてしまっているものを、私は双葉で表現しました。

私が考える双葉とは

私達の生きている社会は、友達・家族・恋人・同僚など…小さな社会の集合体です。

小さな社会の中で心がすり減り、大切なものをいつの間にか見落としていないか。

「当たり前」だと思っていることは、一体いつまで「当たり前」なのか。

身近にある「大切なもの」の価値を、忘れてしまっていないか。

人は見落として、失って、初めて大切なものに気が付きます。

自分たちの歩いてきた足元にも、振り返れば双葉が芽生えているかもしれません。

双葉をモチーフにした理由

双葉は1本の茎から、様々な方向へ葉を伸ばします。

大地に根を張り、水と出会い、それを吸い上げることでどんどん成長していきます。

空から降る雨は大地を潤し、葉に残った水滴は飛んでくる虫たちの喉を潤します。

私達が見過ごしてしまう小さな「双葉」の周りでも、毎日数えきれない出来事が起こっているのです。

毎日「当たり前」のように過ぎていく私達の生活も、双葉のようにそれぞれがどこかで繋がっています。

普段何気なく行っていることも、自分の周りで自然と起きている出来事も、実はどこかの誰かの心を潤す「水」になっているかもしれません。



地

活動動機

当たり前はなぜ消えてしまうのか。

私は、大切な人を失ったことがきっかけで、見落としていることがたくさんあったということ、普段の「当たり前」な生活の中にこそ、本当の幸せが潜んでいるということに気づかされました。

この活動を通して、ひとりひとりにある「当たり前」の中に潜む大切なことに目を向けるきっかけになれば幸いです。

私たちに与えられている日々の「当たり前」な暮らしは、全て誰かの力によって支えられ、成り立っています。

沢山の「当たり前」の中で、そのような誰かのおかげや、優しさに自然と気づくことができ、素直に感謝や敬意を示していけるような共生力が高い社会づくりに貢献していきたいと考えています。



【作者プロフィール】
ソーシャルアート作家
土井田 一将(といだ かずまさ)
1986年7月1日生まれ
岐阜県安八郡輪之内町 出身

ソーシャルアートとは

ソーシャルアートは、社会の深層に潜む課題や問題を浮き彫りにし、私たちの認識や意識を改めて見つめなおすきっかけを持ったアートです。
主に、今の社会の中で、足りない視点や心に気づくきっかけを作り出し、今まで視界に入っていなかった死角を可視化する体験を社会に提示します。

私が行うソーシャルアート活動とは、共生力が高い社会に向かうにあたり、足りない視点や心を生み出すアートを作り出すことです。

これからますます、社会の多様性が進み、違いがより顕になっていきます。
その時に懸念される問題は違うからこそ争ってしまいがちということですが、それはその場の共生力が低いから生じてしまう出来事でもあります。
この共生力を高めることは、争わなくても良い選択肢が生まれる可能性を高める環境の構築となります。

私はこの世界から争いや悲しいできごとをなくしたいです。

これは綺麗事だと言われてしまいがちです。
でも私たち人類の共生力が高まれば可能なこともあります。

ぜひ一緒に共生力が高い社会を目指しませんか？
よろしく願い致します。

主なプロジェクト

双葉を通してみる世界 / くちびる星人 / adopt / small eco loop / kokoro art wall
らくがきスター / ∞blue / germe

TEL:090-3156-0701
mail:socialartoida@gmail.com
WEB:https://toidakazumasa.com/futaba2/
Instagram:@toidakazumasa

WEB



Instagram



双葉を通して 見る世界

共生の芽 ふたば

私たちは失って初めてその大切なものに気づきます。

私たちにとって身近に今ある「当たり前」は「なくなる」と気づけないものだとしても、そこに気づくチャンスがもっと身近にあるとより温かな世界になるのではないのでしょうか。

双葉を通して見る世界は全ての人の足元に生えている双葉(その「尊さ」と「儚さ」)に気づく時間です。



土井田 一将